

Tastes of JAPAN by ANA

ANAは、地域とともにまだ知らない日本の魅力を発見し、国内外に広くお届けします。2019年2月号までは中国・四国エリアを取り上げます。Tastes of JAPAN by ANAの取り組みに関しては専用WEBサイトをご覧ください。

"Tastes of JAPAN by ANA" 専用サイト



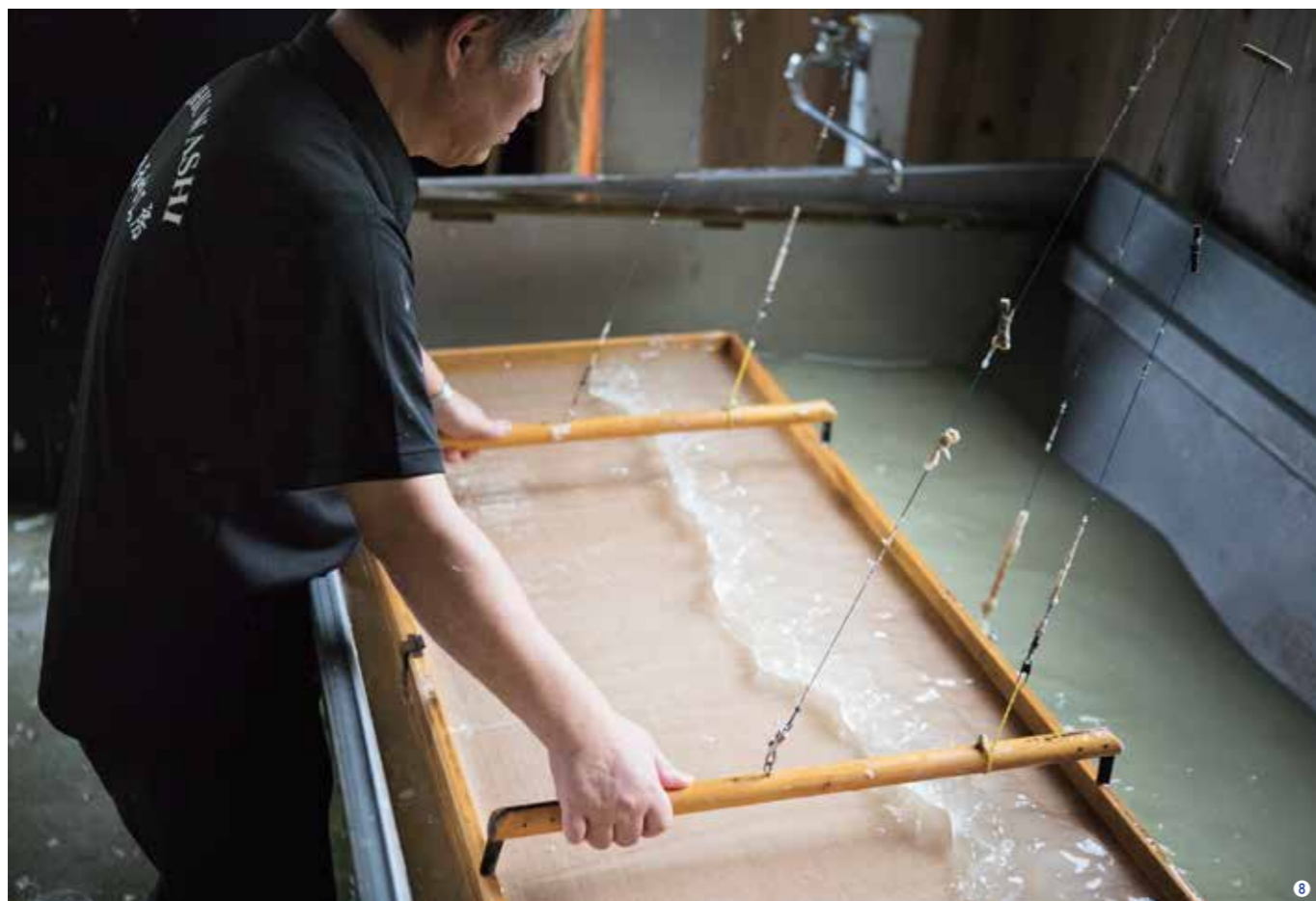
鳥取県・島根県への翼

鳥取市青谷町へは東京(羽田)からANA便で鳥取砂丘コナン空港へ。空港からはクルマで約35分。浜田市三隅町へは東京(羽田)からANA便で萩・石見空港へ。空港からはクルマで約45分。

いました。火事の際は井戸に投げ入れて、治まったら回収する。それほど丈夫なんです。その丈夫で美しい紙作りを、長谷川さん親子は受け継いでいる。長谷川さんの工房では紙漉き体験はできないが、近くにある『あおや和紙工房』で体験することができる。

両県を横断するように、島根県浜田市へと向かう。この地で生まれる石州和紙はユネスコの無形文化遺産に登録されている。三隅町の『西田和紙工房』に7代目西田誠吉(せいきち)さんを訪ねた。工房は家族や親戚、研修生の8人で運営されている。西田さんが紙を漉く姿を見ていると本当に簡単そうに見えてしまうのだが、実際に漉かせてもらおうと、まったく均一にならなかつた。「水の流れを手をはずしたら、力の抜けたよい和紙になる」と笑う。無駄な動きがないのだろう。名人ほど簡単そうに仕事をするのだ。自然の恵みを利用した昔からの仕事だが、鳥取・島根の両県には今もしっかりと残っていた。

⑤ はりも山公園からの三隅地域の眺め。⑥ 皮をはぎ、煮て、水にさらした楳。⑦ むらなく均一に漉かれた美しい和紙。⑧ 「僕らの仕事は、職人として紙にして、次の人に渡すこと」と西田さんは言い切る。



『西田和紙工房』 tel.0855-32-1141

和紙を漉く人たち

1000年以上の歴史を持つ「手漉き和紙」は、日本が世界に誇る技術だ。その技術を拝見しに鳥取県「因州和紙」と島根県「石州和紙」の工房を訪ねた。

因州和紙は、鳥取県東部の旧国名である「因幡国」で生産される手漉き和紙の総称。現在は鳥取市の佐治町と青谷町で生産されている。青谷町・願正寺の門前で3代にわたって紙漉きを生業にしている長谷川憲人(のりひと)さんの工房から、ちやぶん、ちやぶんと水の音が聞こえる。「この紙漉きの音は環境省の『日本の音風景100選』に選ばれたんですよ」と教えてくれた。和紙を作る工房は全国で約200軒、小さなこの集落には3軒残っているという。「因州和紙は、昔は大福帳に使われて

ANA

- Explore the regions -

鳥取県・島根県
和紙



① かつては和紙を年貢として藩に納めていたという。② 願正寺を中心に行われている青谷町山根の集落。③ 長谷川さんは多種多様な紙を漉き、和紙の可能性を探っている。④ 製紙用の糊となるトロロアオイの根。

『長谷川憲人製紙』 tel.0857-86-0627
『鳥取市あおや和紙工房』 tel.0857-86-6060